

「くにみ学園基本構想（案）」の概要について

1 はじめに

国見町は地域に開かれ、信頼される学校づくりを実践する「コミュニティ・スクール」を基盤とした保幼小中一貫教育を進めるため、『自ら学び、心豊かでたくましく、郷土を愛する国見の子』を理念に、発達段階に合わせた実践内容や到達目標を定め取り組んできました。

このことをより効率的に深化させるとともに、教育現場における様々な課題を解決するための教育環境について策定委員会を立ち上げ、検討してきたものが「くにみ学園基本構想」です。

2 これまでの経過

①意見聴取・交換の機会

令和4年5月より以下の取り組みを実施

- ・ワークショップの開催（全町民、コミュニティ・スクール委員、教育研究会など）
- ・アンケートの実施（保育所、幼稚園の保護者や教職員など）
- ・タウンミーティング（小学6年生）
- ・シンポジウム、中間報告会、パブリックコメントの実施（全町民）
- ・総合計画審議会の開催（審議会委員）

②議会への説明等

- 令和4年4月 議会定例会終了後に教育に関する現状と課題を説明し、学園構想策定の着手について報告
- 7月 全員協議会で過疎地域持続的発展計画に含まれる事業として説明
- 9月 議会定例会で行政報告、過疎地域持続的発展計画を議決
- 10、11月 議員懇談会でくにみ学園基本構想策定委員会の報告
- 12月 議会定例会で行政報告、全員協議会で構想素案について説明
- 令和5年1月 議員懇談会で中間報告会と策定委員会について報告
- 2月 全員協議会で学校現場の立場から現状の課題について説明

③くにみ学園基本構想策定委員会

9月に有識者、保護者代表、教員による「くにみ学園基本構想策定委員会」を立ち上げ、2月までに委員会を7回開催し、現状・課題の整理、保育・教育施設の在り方、学園整備の理念と方針などについて協議検討

2月に中間報告を取りまとめ、さらなる説明と検討を続けることを確認

④周知・広報

- ・広報くにみで策定委員会やシンポジウム、中間報告会の概要を掲載
- ・その他、保護者にはメールやSNSにより情報を発信

3 課題と現状

①保育・教育施設の分散

- ・保育所、幼稚園、小学校、中学校が分散しているため、実質的な一貫性に課題があります。

②小1プロブレム

- ・幼稚園の『遊びや体験を通じた教育』から、小学校の『教科学習を中心とした教育』に変わること、集団行動がうまくできなかつたり、授業中に席を立ったり、先生の話を見聞かずに騒いだりする子どもが増加傾向にあります。

③中1ギャップ

- ・学級担任制から教科担任制に変わることや学習難易度が上がることで、授業についていけなくなり、不登校になる生徒がいます。
- ・先輩後輩といった上下関係にうまく対応できず、いじめや不登校などにつながる場合があります。

④少子化

- ・クラス数が減ることで、教員が減り、音楽・技術家庭・保健体育・美術といった技能教科を担当できる教員の確保が困難な状況です。
- ・兄弟姉妹も少なく、核家族化で祖父母との関わりも減り、コミュニケーションの取り方を学ぶ機会が減っています。加えて、地域のつながりも希薄になっており、家族以外の人と関わることも少なく、集団行動を苦手とする子どもが増えています。

⑤地域とのつながり

- ・地域の人々との交流が希薄となっていること、農業体験や昔遊び、登下校の見守りなど、様々な学校活動を支援する学校ボランティアの固定化や高齢化により、子どもたちと地域の人々との交わりが難しくなっています。

4 実現したいこと

- ①子ども、教員、保護者、地域の人々が連携しやすい環境を整備することで、実質的な一貫性を持ち、これまでの一貫教育を深化させたい。
- ②幼稚園と小学校の緩やかなつながりで環境変化への負担を緩和したい。
- ③乳幼児、児童、生徒が成長段階に関わらずふれあい、仲良く、お互いを尊重しあう気持ちを育みたい。
- ④義務教育学校とすることで、小学校の教員が中学生の授業を、中学校の教員が小学生の授業を受け持つなど、柔軟な対応が可能になるので、小学校において新たに求められている、英語・算数・理科・体育での教科担任制に対応しやすくしたい。
- ⑤学園に地域学校協働本部や一般の人も利用できるスペースを設け、つながりを容易にすることで、より多くの人と関わりを持ち、思いやりの気持ちやコミュニケーション能力を育みたい。

これらを実現するために・・・



学校、保護者、地域が一体となった「くにみ学園」

5 学園整備の理念

これからの教育は、学びによる学力（知識の習得）だけではなく、「知識を使う能力」が必要になっています。

くにみ学園では、異年齢との交わりを通して、挑戦する力や好奇心を大切に、自ら学びに向かう子どもの育みを支え、0歳から15歳までのつながる学びを展開します。

◎理念◎

ワクワク チャレンジ つながる くにみっ子

6 学園整備の方針

①0歳から15歳のつながる学園

保幼小中のすべての子どもが交わりやすい配置
教員が連携しやすく、働きやすい環境
放課後児童クラブや子育て支援センターを保護者の視点で配置

②遊びと学びを探究する学園

遊びや運動をしやすい園庭や運動場
子どもの「やりたい」に応じる空間（芸術、音楽など）
子どもも教員もストレスなく活用できるICT環境

③大人も子どももワクワクする学園

地域の人々が気軽に交わりやすく、子どもたちが様々なことを学べる
子どもの特性に配慮できるよう、フレキシブルな部屋

④安全・安心の学園

外部からの侵入者対策を徹底し、地震や大雨等の自然災害に強い
バリアフリーや個別対応の環境を整え、多様性を尊重
安全に通学できる環境と保護者の送迎車が乗り入れしやすい

⑤国見といえば の学園

建物には町産材を使用し、自然環境を安全に体感できる
学園の中心に学校図書館を配置し、子どもも大人も気軽に利用できる
町の基幹産業である農業に親しみ、学び、地域の人々と農業体験ができる

7 建設候補地について

くにみ学園を整備するためには、ある程度の広い敷地が必要となります。その面積を確保できる町有地3か所を候補地としました。

県北中学校

上野台運動公園

国見小学校

8 今後について

今後も、保護者や児童生徒をはじめ、町民みなさまに広く説明し、意見をいただく機会を設け、基本構想をとりまとめていきます。

なお、基本構想が決まった後で、建設場所や施設規模、整備費用などを具体的に調査検討することになります。